

主要活断層帯の長期評価の概要(算定基準日 平成30年(2018年)1月1日) <都道府県別>

(陸域・沿岸域の活断層から発生する地震の今後30, 50, 100年以内の地震発生確率等)

- ・都道府県の記載順は都道府県JISコード(JIS X0401)に基づいています。
- ・各都道府県に位置する主要活断層帯を、都道府県別に掲載しています。
- ・複数の都道府県に位置している主要活断層帯については、位置している全ての都道府県の欄に掲載しています。再掲した主要活断層帯名を薄緑色で示しています。
- ・地震に関する総合的な調査観測計画における調査対象活断層を平成29年2月21日に一部改訂したことにより、新たに追加された主要活断層帯を薄青色で示しています。
- ・主要活断層帯単位で掲載しているため、主要活断層帯が複数の活動区間に分かれている場合は、各都道府県に位置していない活動区間も掲載している場合があります。

■北海道地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 (注4)		地震発生確率 (注1)			地震後 経過率 (注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
北海道	標津断層帯	しべつ だんそうたい	7.7程度以上	Xランク		不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明
	十勝平野断層帯 (主部)(注5)	とかちへいや だんそうたい	8.0程度	Aランク		0.1%~0.2%	0.2%~0.3%	0.5%~0.6%	不明	17,000年-22,000年程度
	十勝平野断層帯 (光地園断層)(注6)		7.2程度	Aランク		0.1%~0.4%	0.2%~0.7%	0.5%~1%	-	7,000年-21,000年程度 約21,000年前以後に2回
	富良野断層帯 (西部)	ふらの だんそうたい	7.2程度	Zランク		ほぼ0%~ 0.03%	ほぼ0%~ 0.05%	ほぼ0%~0.1%	0.07-0.5	4,000年程度 2世紀-1739年
	富良野断層帯 (東部)		7.2程度	Zランク		ほぼ0%~ 0.01%	ほぼ0%~ 0.02%	ほぼ0%~ 0.05%	0.1-0.5	9,000年-22,000年程度 約4,300年前-2,400年前
	増毛山地東縁断層帯・沼田-砂川付近の断層帯 (増毛山地東縁断層帯)(注5)	ましげさんちと うえんだんそ うたいぬまた すなかわふさ きのだんそう たい	7.8程度	Aランク		0.6%以下	1%以下	2%以下	不明	5,000年程度以上
	増毛山地東縁断層帯・沼田-砂川付近の断層帯 (沼田-砂川付近の断層帯)	7.5程度	Xランク		不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明	不明
	当別断層	とうべつだん そう	7.0程度	A*ランク		ほぼ0%~2%	ほぼ0%~4%	ほぼ0%~8%	0.1-1.5	7,500年-15,000年程度 約11,000年前-2,200年前
	石狩低地東縁断層帯 (主部)	いしかりてい ちとうえんだ んそうたい	7.9程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%~ 0.002%	0.07-0.3	1,000年-2,000年程度 1739年-1885年
	石狩低地東縁断層帯 (南部)(注5)	7.7程度以上	Aランク		0.2%以下	0.3%以下	0.6%以下	不明	17,000年程度以上	
	黒松内低地断層帯	くろまつない ていちだん そうたい	7.3程度以上	S*ランク		2%~5% 以下	3%~9% 以下	7%~20% 以下	1.0-1.6以下	3,600年-5,000年程度以上 約5,900年前-4,900年前
	函館平野西縁断層帯	はこだてへい やせいえん だんそうたい	7.0~7.5程度	A*ランク		ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~3%	0.02-1.1	13,000年-17,000年 14,000年前以後
	サロベツ断層帯	さろべつ だんそうたい	7.6程度	S*ランク		4%以下	7%以下	10%以下	1.3以下	約4,000年-8,000年 約5,100年前以後
	幌延断層帯	ほろのべだ んそうたい	活断層ではないと判断される。							

注1： 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、10⁻³%未満の確率値を表す。

注2： 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注3： 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。

注4： 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率(注2)が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。

注5： 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法(地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT分布モデル)ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方(ポアソン過程)により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。

注6： 十勝平野断層帯(光地園断層)は、最新活動時期が十分絞り込まれておらず、通常的手法では平均活動間隔を求めることができない。ここでは、過去の活動時期から、約21000年前以後に2回の活動があったとして平均活動間隔を求めている。また、地震発生確率の計算に際しては、通常のBPT分布を用いることができるだけの信頼度がないと見て、ポアソン過程で求めた。同じ理由から、地震後経過率も求められない。

■東北地方

都道府県	断層帯名 (起震層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
青森県	青森湾西岸断層帯 ^(注5)	あおりわんせい いがんだんそう たい	7.3程度	Aランク		0.5%~1%	0.8%~2%	2%~3%	不明	3,000年~6,000年程度 不明
	津軽山地西縁断層帯 ^(注7) (北部)	つがるさんちせい えんだんそう たい	6.8~7.3程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 1766年の地震
	津軽山地西縁断層帯 ^(注7) (南部)	つがるさんちせい えんだんそう たい	7.1~7.3程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 1766年の地震
	折爪断層 ^(注8)	おりつめだん そう	(最大7.6程度)	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
岩手県	折爪断層 ^(注8)	おりつめだん そう	(最大7.6程度)	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	北上低地西縁断層帯	きたかみでい ちせいえんだ んそうたい	7.8程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2~0.3	16,000年~26,000年 4,500年前頃
	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (雫石盆地西縁断層帯)	しずくいしぼん ちせいえん-	6.9程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約2,800年前~14世紀
	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (真昼山地東縁断層帯/北部)	しずくいしぼん ちせいえん- まひるさんち とうえんだん そうたい	6.7~7.0程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.004~0.02	約6,300年~31,000年 1896年陸羽地震
	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (真昼山地東縁断層帯/南部)	しずくいしぼん ちせいえん- まひるさんち とうえんだん そうたい	6.9~7.1程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
宮城県	長町一利府線断層帯 ^(注9)	ながまちーり ふせんだん そうたい	7.0~7.5程度	Aランク		1%以下	2%以下	3%以下	-	3,000年程度以上 約16,000年前以後
	福島盆地西縁断層帯	ふくしまぼん ちせいえんだ んそうたい	7.8程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2~0.3	8,000年程度 約2,200年前~3世紀
	双葉断層 ^(注10)	ふたばだん そう	6.8~7.5程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2~0.3	8,000年~12,000年程度 約2400年前~2世紀
秋田県	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (雫石盆地西縁断層帯)	しずくいしぼん ちせいえん-	6.9程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約2,800年前~14世紀
	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (真昼山地東縁断層帯/北部)	しずくいしぼん ちせいえん- まひるさんち とうえんだん そうたい	6.7~7.0程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.004~0.02	約6,300年~31,000年 1896年陸羽地震
	雫石盆地西縁-真昼山地東縁断層帯 (真昼山地東縁断層帯/南部)	しずくいしぼん ちせいえん- まひるさんち とうえんだん そうたい	6.9~7.1程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	能代断層帯	のしろだん そうたい	7.1程度以上	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1~0.2	1,900年~2,900年程度 1694年能代地震
	横手盆地東縁断層帯 (北部)	よこてぼんち とうえんだん そうたい	7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04	3,400年程度 1896年陸羽地震
	横手盆地東縁断層帯 (南部)	よこてぼんち とうえんだん そうたい	7.3程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約6,000年前~5,000年前以後
	北由利断層	きたゆりだん そう	7.3程度	A*ランク		2%以下	3%以下	6%以下	0.8以下	3,400年~4,000年程度 約2,800年前以後
	花輪東断層帯 ^(注5)	はなわひがし だんそうたい	7.0程度	Aランク		0.6%~1%	1%~2%	2%~3%	不明	3,000年~5,000年程度 約15,000年前以後
山形県	新庄盆地断層帯 (西部) ^(注5)	しんじょうぼん ちだんそう たい	6.9程度	Aランク		0.6%	1%	2%	不明	4,700年程度 不明
	新庄盆地断層帯 (東部)	しんじょうぼん ちだんそう たい	7.1程度	S*ランク		5%以下	8%以下	20%以下	1.6以下	4,000年程度 約6,200年前以後
	山形盆地断層帯 (北部)	やまがたぼん ちだんそう たい	7.3程度	S*ランク		0.002%~8%	0.005%~10%	0.01%~20%	0.4~1.6	約2,500年~4,000年 約3,900年前~1,600年前
	山形盆地断層帯 (南部) ^(注5)	やまがたぼん ちだんそう たい	7.3程度	Aランク		1%	2%	4%	不明	2,500年程度 不明
	庄内平野東縁断層帯 (北部)	しょうないへい やとうえんだ んそうたい	7.1程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.08~0.1 もしくはそれ以上	1,000年~1,500年程度 1894年庄内地震
	庄内平野東縁断層帯 (南部)	しょうないへい やとうえんだ んそうたい	6.9程度	S*ランク		ほぼ0%~6%	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~20%	0.05~1.2	約2,500年~4,600年 約3,000年前~18世紀
	長井盆地西縁断層帯	ながいぼんち せいえんだん そうたい	7.7程度	Zランク		0.02%以下	0.04%以下	0.1%以下	0.5以下	5,000年~6,300年程度 約2,400年前以後

福島県	福島盆地西縁断層帯	ふくしまぼんち せいえんだん そうたい	7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	8,000年程度 約2,200年前-3世紀
	双葉断層 ^(注10)	ふたばだんそう	6.8-7.5程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	8,000年-12,000年程度 約2400年前-2世紀
	会津盆地西縁・東縁断層帯 (会津盆地東縁断層帯)	あいづぼんち せいえん・とう えんだんそうた い	7.7程度	Zランク	ほぼ0%～ 0.02%	ほぼ0%～ 0.03%	ほぼ0%～ 0.07%	0.3-0.5	約6,300年-9,300年 約3,000年前-2,600年前
	会津盆地西縁・東縁断層帯 (会津盆地西縁断層帯)		7.4程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.06	約7,400年-9,700年 1611年会津地震

- 注1： 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。
- 注2： 最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。
- 注3： 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。
- 注4： 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。地震後経過率（注2）が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。
- 注5： 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法（地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT分布モデル）ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方（ポアソン過程）により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。
- 注7： 津軽山地西縁断層帯は、北部及び南部に分かれると評価されている。平均活動間隔が不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が1766年であり、地震後経過年数が短いため、近い将来の地震発生確率はごく小さいと考えられる。なお、最新活動と考えられる地震の規模が断層帯の長さ比べて大きい場合、発生する地震の規模は幅を持った値としている。
- 注8： 折爪断層は、将来の活動可能性を明確にするために必要な資料が十分得られていない。鮮新世の地層を大きく変位させているので、第四紀に活動した断層であることはほぼ確かであると考えられているが、第四紀後期に活動を繰り返していることを示す確かな証拠はこれまで発見されておらず、特に、北部の辰ノ口撓曲においては第四紀後期の活動性は衰えている可能性もある。このため、発生する可能性がある地震の規模についても、便宜的に最大値を記載しているものの、この値は断層全体が一つの区間として活動した場合の試算値に過ぎないことに注意する必要がある。
- 注9： 長町一利府線断層帯は、最新活動時期が約16000年前以後と求められているが、平均活動間隔3000年に対して十分に絞り込まれていない。このため、地震発生確率の計算に際しては、ポアソン過程を用いた。同じ理由から、地震後経過率も求めてない。
- 注10： 平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴い、糸魚川-静岡構造線断層帯（牛伏寺断層）、立川断層帯、双葉断層、三浦半島断層群、阿寺断層帯（主部/北部（萩原断層））では、地震発生確率が表の値より高くなっている可能性がある。

■ 関東・中部地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
栃木県	関谷断層	せきやだんそう	7.5程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.08-0.3	約2,600年-4,100年 14-17世紀
	大久保断層 ^(注5)	おおくぼだん そう	7.0程度 以上	Aランク	黄	0.6%	1%	2%	不明	5,000年程度 不明
群馬県	大久保断層 ^(注5)	おおくぼだん そう	7.0程度 以上	Aランク	黄	0.6%	1%	2%	不明	5,000年程度 不明
	深谷断層帯 ^(注23)		7.9程度	Aランク	黄	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.5%	0.2-0.6	10,000年-25,000年程度 約6,200年前以後-約5,800年前以前
	綾瀬川断層 ^(注23) (鴻巣-伊奈区間)	ふかやだんそ うたい あやせがわだ んそう	7.0程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.3	45,000年-71,000年程度 約15,000年前以後-約9,000年前以前
	綾瀬川断層 ^(注23) (伊奈-川口区間)		7.0程度	Xランク	灰	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
埼玉県	深谷断層帯 ^(注23)		7.9程度	Aランク	黄	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.5%	0.2-0.6	10,000年-25,000年程度 約6,200年前以後-約5,800年前以前
	綾瀬川断層 ^(注23) (鴻巣-伊奈区間)	ふかやだんそ うたい あやせがわだ んそう	7.0程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.3	45,000年-71,000年程度 約15,000年前以後-約9,000年前以前
	綾瀬川断層 ^(注23) (伊奈-川口区間)		7.0程度	Xランク	灰	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	立川断層帯 ^(注9)	たちかわだん そうたい	7.4程度	A*ランク	黄	0.5%~2%	0.8%~4%	2%~7%	0.9-2.0	10,000年-15,000年程度 約20,000年前-13,000年前
	荒川断層	あらかわだん そう	活断層ではないと判断される。							
千葉県	鴨川低地断層帯 ^(注10)	かもがわてい ちだんそうたい	概ね7.2	Xランク	灰	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	東京湾北縁断層	とうきょうわんほ くえんだんそう	活断層ではないと判断される。							
東京都	立川断層帯 ^(注9)	たちかわだん そうたい	7.4程度	A*ランク	黄	0.5%~2%	0.8%~4%	2%~7%	0.9-2.0	10,000年-15,000年程度 約20,000年前-13,000年前
神奈川県	伊勢原断層	いせはらだん そう	7.0程度	Zランク	黒	ほぼ0%~ 0.003%	ほぼ0%~ 0.005%	ほぼ0%~ 0.01%	0.05-0.4	4,000年-8,000年程度 5世紀以後-18世紀初頭以前
	塩沢断層帯 ^{(注5)(注24)}	しおざわだん そうたい	6.8程度 以上	Sランク	赤	4%以下	6%以下	10%以下	不明	800年程度以上 不明
	平山-松田北断層帯 ^(注24)	ひらやま-ま つだきただん そうたい	6.8程度	A*ランク	黄	0.09%~0.6%	0.2%~1%	0.3%~2%	0.5-0.7	4,000年-5,000年程度 約2,700年前
	国府津-松田断層帯 ^(注24)	こうづ-まつだ だんそうたい	-	-	灰	-	-	-	-	(分岐断層)
	三浦半島断層群 (主部/武山断層帯) ^(注9)		6.6程度 もしくはそれ以上	S*ランク	赤	6%~11%	9%~20%	20%~30%	1.0-1.4	1,600年-1,900年程度 約2,300年前以後-約1,900年前以前
	三浦半島断層群 (主部/衣笠-北武断層帯) ^(注9)	みうらほんとう だんそうぐん	6.7程度 もしくはそれ以上	S*ランク	赤	ほぼ0%~3%	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~10%	0.3-0.8	1,900年-4,900年程度 6-7世紀
	三浦半島断層群 (南部)		6.1程度 もしくはそれ以上	Xランク	灰	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約26,000年前-22,000年前
	北伊豆断層帯	きたいずだん そうたい	7.3程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06	約1,400年-1,500年 1930年北伊豆地震
新潟県	櫛形山脈断層帯	くしがたさん みやくだんそ うたい	6.8程度	S*ランク	赤	0.3%~5%	0.6%~8%	1%~20%	0.6-1.1	約2,800年-4,200年 約3,200年前-2,600年前
	月岡断層帯	つきおかだん そうたい	7.3程度	A*ランク	黄	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~3%	0.1以下-0.9	7,500年以上 約6,500年-900年前
	長岡平野西縁断層帯	ながおかへい やせいえんだ んそうたい	8.0程度	A*ランク	黄	2%以下	4%以下	10%以下	0.7以下	約1,200年-3,700年 13世紀以後
	十日町断層帯 (西部)	とのおかまちだ んそうたい	7.4程度	S*ランク	赤	3%以上	5%以上	10%以上	0.9以上	3,300年程度 約3,100年前以前
	十日町断層帯 (東部) ^(注5)		7.0程度	Aランク	黄	0.4%~0.7%	0.6%~1%	1%~2%	不明	4,000年-8,000年程度 不明 ^(注11)
	高田平野断層帯 (高田平野東縁断層帯) ^(注12)		7.2程度	S*ランク	赤	ほぼ0%~8%	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~20%	0.07-1.5	2,300年程度 約3,500年前-19世紀
	高田平野断層帯 (高田平野西縁断層帯)	たかだへい だんそうたい	7.3程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.1	2,200年-4,800年程度 1751年の地震

	野坂・集福寺断層帯 (野坂断層帯)	のさか・しゅう ふくじだんそう たい	7.3程度	Zランク	ほぼ0% もしくはそれ以上	ほぼ0% もしくはそれ以上	ほぼ0% もしくはそれ以上	0.04-0.1 もしくはそれ以上	約5,600年-7,600年 もしくはそれ以下
	野坂・集福寺断層帯 (集福寺断層)		6.5程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	湖北山地断層帯 (北西部)	こほくさんちだ んそうたい	7.2程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%~ 0.001%	0.2-0.3	約3,000年-4,000年
	湖北山地断層帯 (南東部)		6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.05-0.09	概ね7,000年程度 15-17世紀
	三方・花折断層帯 (三方断層帯)	みかた・はなお れだんそうたい	7.2程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.09	約3,800年-6,300年 1662年の地震
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/北部) ^(注17)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 1662年の地震
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/中南部)		7.3程度	A*ランク	ほぼ0%~0.6%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	0.2-0.7	4,200年-6,500年 2,800年前-6世紀
山梨県	曾根丘陵断層帯 ^(注18)	そねきゅうりょう だんそうたい	7.3程度	Aランク	1%	2%	3%~5%	-	概ね2,000年-3,000年 約10,000年前以後
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (北部区間) ^(注19)	いといがわ-し ずおかこうぞう せんだんそうた い	7.7程度	S*ランク	0.008%~16%	0.02%~20%	0.05%~40%	0.4-1.3	1,000年-2,400年程度 約1,300年前以後-約1,000年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (中北部区間) ^(注19)		7.6程度	S*ランク	13%~30%	20%~50%	40%~70%	1.0-2.0	600年-800年程度 約1,200年前以後-約800年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (中南部区間) ^(注19)		7.4程度	S*ランク	0.8%~8%	1%~10%	4%~30%	0.6-1.0	1,300年-1,500年程度 約1,300年前以後-約900年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (南部区間) ^(注19)		7.6程度	Aランク	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.4%	0.2-0.5	4,600年-6,700年程度 約2,500年前以後-約1,400年前以前
	身延断層	みのぶだんそ う	7.0程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
長野県	糸魚川-静岡構造線断層帯 (北部区間) ^(注19)	いといがわ-し ずおかこうぞう せんだんそうた い	7.7程度	S*ランク	0.008%~16%	0.02%~20%	0.05%~40%	0.4-1.3	1,000年-2,400年程度 約1,300年前以後-約1,000年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (中北部区間) ^(注19)		7.6程度	S*ランク	13%~30%	20%~50%	40%~70%	1.0-2.0	600年-800年程度 約1,200年前以後-約800年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (中南部区間) ^(注19)		7.4程度	S*ランク	0.8%~8%	1%~10%	4%~30%	0.6-1.0	1,300年-1,500年程度 約1,300年前以後-約900年前以前
	糸魚川-静岡構造線断層帯 (南部区間) ^(注19)		7.6程度	Aランク	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.4%	0.2-0.5	4,600年-6,700年程度 約2,500年前以後-約1,400年前以前
	長野盆地西縁断層帯 ^(注14) (飯山-千曲区間)	ながのぼんち せいえんだん そうたい	7.4-7.8 程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.07-0.2	800年-2,500年程度 1847年善光寺地震
	長野盆地西縁断層帯 ^(注14) (麻績区間)	6.8程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明	
	木曾山脈西縁断層帯 (主部/北部)	きそさんみやく せいえんだん そうたい	7.5程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.08-0.1	約6,400-9,100年 13世紀頃
	木曾山脈西縁断層帯 (主部/南部)		6.3程度	S*ランク	ほぼ0%~4%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-1.4	約4,500年-24,000年 約6,500年前-3,800年前
	木曾山脈西縁断層帯 (清内路峠断層帯)		7.4程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	境峠・神谷断層帯 (主部) ^(注20)	さかいとうげ・ かみやだんそ うたい	7.6程度	S*ランク	0.02%~13%	0.04%~20%	0.09%~40%	0.5-2より大	約1,800年-5,200年 約4,900年前-2,500年前
	境峠・神谷断層帯 (霧訪山-奈良井断層帯)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	伊那谷断層帯 (主部) ^(注21)	いなだにだん そうたい	8.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.05-0.1	約5,200年-6,400年 14-18世紀
	伊那谷断層帯 (南東部)		7.3程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	阿寺断層帯 (主部/北部) ^(注9)	あてらだんそ うたい	6.9程度	S*ランク	6%~11%	10%~20%	20%~30%	1.2-1.9	約1,800年-2,500年 約3,400年前-3,000年前
	阿寺断層帯 (主部/南部)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.3	約1,700年 1586年天正地震
	阿寺断層帯 (佐見断層帯)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
阿寺断層帯 (白川断層帯)	7.3程度		Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明	

岐阜県	木曾山脈西縁断層帯 (主部/北部)	きそさんみやく せいえんだん そうたい	7.5程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.08-0.1	約6,400-9,100年 13世紀頃
	木曾山脈西縁断層帯 (主部/南部)		6.3程度	S*ランク	ほぼ0%~4%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-1.4	約4,500年-24,000年 約6,500年前-3,800年前
	木曾山脈西縁断層帯 (清内路峠断層帯)		7.4程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	跡津川断層帯	あつがわだ んそうたい	7.9程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.07	約2,300年-2,700年 1858年飛越地震
	高山・大原断層帯 (国府断層帯)	たかやま・おっ ぼらだんそうた い	7.2程度	S*ランク	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.07-1.3	約3,600年-4,300年 約4,700年前-300年前
	高山・大原断層帯 (高山断層帯) ^(注5)		7.6程度	Aランク	0.7%	1%	2%	不明	4,000年程度 不明
	高山・大原断層帯 (猪之鼻断層帯)		7.1程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	牛首断層帯	うしくびだん そうたい	7.7程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.2	約5,000年-7,100年 11-12世紀
	庄川断層帯	しょうかわだ んそうたい	7.9程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.3	約3,600年-6,900年 11-16世紀
	阿寺断層帯 (主部/北部) ^(注9)	あてらだん そうたい	6.9程度	S*ランク	6%~11%	10%~20%	20%~30%	1.2-1.9	約1,800年-2,500年 約3,400年前-3,000年前
	阿寺断層帯 (主部/南部)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.3	約1,700年 1586年天正地震
	阿寺断層帯 (左見断層帯)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	阿寺断層帯 (白川断層帯)		7.3程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	屏風山・恵那山一猿投山断層帯 (屏風山断層帯) ^(注5)	びょうぶやま・ えなさん一さな げやまだんそう たい	6.8程度	Aランク	0.2%~0.7%	0.4%~1%	0.8%~2%	不明	4,000年-12,000年程度 不明
	屏風山・恵那山一猿投山断層帯 (赤河断層帯)		7.1程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	屏風山・恵那山一猿投山断層帯 (恵那山一猿投山北断層帯)		7.7程度	A*ランク	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~3%	0.001%~6%	0.4-1.1	約7,200年-14,000年 約7,600年前-5,400年前
	屏風山・恵那山一猿投山断層帯 (猿投一高浜断層帯)		7.7程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.4	40,000年程度 約14,000年前頃
	屏風山・恵那山一猿投山断層帯 (加木屋断層帯) ^(注5)		7.4程度	Aランク	0.1%	0.2%	0.3%	不明	30,000年程度 不明
	長良川上流断層帯	ながらがわじ ょうりゅうだん そうたい	7.3程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	濃尾断層帯 (温見断層/北西部)	のうびだん そうたい	6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.05-0.06	約2,200年-2,400年 1891年濃尾地震
	濃尾断層帯 (温見断層/南東部)		7.0程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	濃尾断層帯 (主部/根尾谷断層帯)		7.3程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.06	約2,100年-3,600年 1891年濃尾地震
	濃尾断層帯 (主部/梅原断層帯)		7.4程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.008-0.009	約14,000年-15,000年 1891年濃尾地震
	濃尾断層帯 (主部/三田涧断層帯)		7.0程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	濃尾断層帯 (揖斐川断層帯)		7.1程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 1-10世紀
	濃尾断層帯 (武儀川断層)		7.3程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明

	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/北部)	やながせ・せきが はらだんそうた い	7.6程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.2	約2,300年-2,700年 17世紀頃
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/中部)		6.6程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約7,200年前-7,000年前
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/南部)		7.6程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約4,900年前-15世紀
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (浦底-柳ヶ瀬山断層帯)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	養老-桑名-四日市断層帯	よろろう-くわな-よつかい ちだんそうた い	8程度	Aランク	ほぼ0%~0.7%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~3%	0.2-0.6	1,400年-1,900年 13-16世紀
	鈴鹿東縁断層帯	すずかとうえん だんそうた い	7.5程度	Zランク	ほぼ0%~ 0.07%	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	0.2-0.5	約6,500年-12,000年 約3,500年前-2,800年前
	岐阜-一宮断層帯	ぎふ-いちの みやだんそうた い	活断層ではないと判断される。						
静岡県	塩沢断層帯 ^{(注5)(注24)}	しおざわだん そうた い	6.8程度 以上	Sランク	4%以下	6%以下	10%以下	不明	800年程度以上 不明
	平山-松田北断層帯 ^(注24)	ひらやま-ま つだきただん そうた い	6.8程度	A*ランク	0.09%~0.6%	0.2%~1%	0.3%~2%	0.5-0.7	4,000年-5,000年程度 約2,700年前
	国府津-松田断層帯 ^(注24)	こうづ-まつだ だんそうた い	-	-	-	-	-	-	(分岐断層)
	身延断層	みのぶだん そう う	7.0程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	北伊豆断層帯	きたいずだん そうた い	7.3程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06	約1,400年-1,500年 1930年北伊豆地震
愛知県	屏風山・恵那山-猿投山断層帯 (屏風山断層帯) ^(注5)	びょうぶやま・ えなさん-さな げやまだんそう た い	6.8程度	Aランク	0.2%~0.7%	0.4%~1%	0.8%~2%	不明	4,000年-12,000年程度 不明
	屏風山・恵那山-猿投山断層帯 (赤河断層帯)		7.1程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	屏風山・恵那山-猿投山断層帯 (恵那山-猿投山北断層帯)		7.7程度	A*ランク	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~3%	0.001%~6%	0.4-1.1	約7,200年-14,000年 約7,600年前-5,400年前
	屏風山・恵那山-猿投山断層帯 (猿投-高浜断層帯)		7.7程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.4	40,000年程度 約14,000年前頃
	屏風山・恵那山-猿投山断層帯 (加木屋断層帯) ^(注5)		7.4程度	Aランク	0.1%	0.2%	0.3%	不明	30,000年程度 不明
	伊勢湾断層帯 (主部/北部)	いせわんだん そうた い	7.2程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.03-0.1	10,000年-15,000年程度 概ね1000年前-500年前
	伊勢湾断層帯 (主部/南部)		6.9程度	Zランク	ほぼ0%~ 0.002%	ほぼ0%~ 0.004%	ほぼ0%~ 0.009%	0.2-0.4	5,000年-10,000年程度 概ね2,000年前-1,500年前
	伊勢湾断層帯 (白子-野間断層)		7.0程度	A*ランク	0.2%~0.8%	0.3%~1%	0.7%~3%	0.6-0.8	8,000年程度 概ね6,500年前-5,000年前
	岐阜-一宮断層帯		ぎふ-いちの みやだんそうた い	活断層ではないと判断される。					
三重県	養老-桑名-四日市断層帯	よろろう-くわな-よつかい ちだんそうた い	8程度	Aランク	ほぼ0%~0.7%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~3%	0.2-0.6	1,400年-1,900年 13-16世紀
	鈴鹿東縁断層帯	すずかとうえん だんそうた い	7.5程度	Zランク	ほぼ0%~ 0.07%	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%~0.2%	0.2-0.5	約6,500年-12,000年 約3,500年前-2,800年前
	頓宮断層	とんぐうだん そう う	7.3程度	A*ランク	1%以下	2%以下	4%以下	1.0以下	約10,000年以上 約10,000年前-7世紀
	布引山地東縁断層帯 (東部)	ぬのびきさんち とうえんだん そうた い	7.6程度	Zランク	0.001%	0.002%	0.005%	0.4	25,000年程度 11,000年前頃
	布引山地東縁断層帯 (西部)		7.4程度	A*ランク	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~4%	0.02-1.6	17,000年程度 約28,000年前-400年前
	木津川断層帯	きづがわだん そうた い	7.3程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.04	約4,000年-25,000年 1854年伊賀上野地震
	伊勢湾断層帯 (主部/北部)	いせわんだん そうた い	7.2程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.03-0.1	10,000年-15,000年程度 概ね1000年前-500年前
	伊勢湾断層帯 (主部/南部)		6.9程度	Zランク	ほぼ0%~ 0.002%	ほぼ0%~ 0.004%	ほぼ0%~ 0.009%	0.2-0.4	5,000年-10,000年程度 概ね2,000年前-1,500年前
	伊勢湾断層帯 (白子-野間断層)		7.0程度	A*ランク	0.2%~0.8%	0.3%~1%	0.7%~3%	0.6-0.8	8,000年程度 概ね6,500年前-5,000年前

(参考) 富士川河口断層帯の長期評価の概要 (算定基準日 平成28年 (2016年) 1月1日) (注22)

(駿河トラフで発生した海溝型地震に伴って活動したと考える場合の地震発生確率等)

	断層帯名 (起震断層/活動区間)	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 (注4)		地震発生確率 (注1)			地震後 経過率 (注2)	平均活動間隔	
			ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期	
静岡県	富士川河口断層帯 (ケースa)	ふじがわかこう だんそうたい	8.0程度	S*ランク	■	10%~18%	20%~30%	30%~50%	0.9-2より大	約150年-300年 13世紀後半以後-18世紀前半以前
	富士川河口断層帯 (ケースb)		8.0程度	S*ランク	■	2%~11%もしくは はそれ以下	3%~20%もしくは はそれ以下	8%~30%もしくは はそれ以下	0.7-1.2もしくは はそれ以下	約1,300年-1,600年 6世紀以後-9世紀以前、もしくはそれ以後

- 注1: 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。
- 注2: 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。
- 注3: 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。
- 注4: 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率(注2)が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。
- 注5: 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法(地震の発生確率が時間とともに変動するモデル: BPT分布モデル)ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方(ポアソン過程)により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。
- 注9: 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震に伴い、糸魚川-静岡構造線断層帯(牛伏寺断層)、立川断層帯、双葉断層、三浦半島断層群、阿寺断層帯(主部/北部(萩原断層))では、地震発生確率が表の値より高くなっている可能性がある。
- 注10: 鴨川低地断層帯に関しては、活断層であるかどうかの確実な証拠に乏しく、活断層としての存在そのものについて疑問視した調査結果も報告されている。よって、今後、本断層帯の活動時期や活動性に関する確実な資料を得る必要がある。
- 注11: 十日町断層帯(東部)では、約3800-3200年前に活動した可能性があるが、これを最新活動と限定できなかったことから、不明としている。そのため、地震後経過率を求められない。
- 注12: 高田平野断層帯(高田平野東縁断層帯)の最新活動時期は、約3500年前以後、19世紀以前と推定されている。19世紀以前であることは、1847年の地震以降に本断層帯付近で大きな被害地震が起こっていないことに基づいていることから、最新活動時期を3500年前以後、西暦1847年以前として地震発生確率を算出している。
- 注13: 六日町断層帯(北部)については、平成16年(2004年)新潟県中越地震を最新活動としない場合(ケース1)とこれを最新活動とする場合(ケース2)の2つの場合分けをして、評価を行った。
- 注14: 長野盆地西縁断層帯については、これまで飯山-千曲区間を単一の活動区間として評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2001)。その後、同断層帯延長部の分布に関する新たな知見に基づき、飯山-千曲区間の南方延長に麻績区間を新たに追加して評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2015)。従来の名称「信濃川断層帯(長野盆地西縁断層帯)」(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2001)は、評価の結果、「長野盆地西縁断層帯(信濃川断層帯)」(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2015)と称することとしたので、ここでは長野盆地西縁断層帯と記述した。
地震調査研究推進本部地震調査委員会(2001): 「信濃川断層帯(長野盆地西縁断層帯)の評価」, 22p.
地震調査研究推進本部地震調査委員会(2015): 「長野盆地西縁断層帯(信濃川断層帯)の長期評価(一部改訂)」, 34p.
- 注15: 邑知潟断層帯は、最新活動時期が十分絞り込まれておらず、通常的手法では平均活動間隔を求めることができない。そこで、過去の活動時期から、約4900年前-9世紀に3回の活動があったとして平均活動間隔を求めている。また、地震発生確率の計算に際しては、通常のBPT分布を用いることができるだけの信頼度がないと考えて、ポアソン過程で求めた。同じ理由から、地震後経過率も求められない。
- 注16: 福井平野東縁断層帯(西部)は、平均活動間隔が不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が1948年であり、地震後経過年数が短いため、近い将来の地震発生確率はごく小さいと考えられる。
- 注17: 三方・花折断層帯(花折断層帯/北部)は、平均活動間隔が不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が1662年の地震である可能性があることから、近い将来の地震発生可能性は小さいと考えられる。
- 注18: 曾根丘陵断層帯は、最新活動時期が約10000年前以後と求められているが、平均活動間隔2000-3000年に対して十分に絞り込まれていない。このため、地震発生確率の計算に際しては、ポアソン過程を用いた。同じ理由から、地震後経過率も求めてない。
- 注19: 糸魚川-静岡構造線断層帯については、これまで北部・中部・南部に3区分して評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 1996)。地震調査研究推進本部地震調査委員会(2015)は、その後得られた新たな知見に基づき、北部・中北部・中南部・南部の4つの区間に再区分して評価を行った。
地震調査研究推進本部地震調査委員会(1996): 「糸魚川-静岡構造線活断層系の調査結果と評価」, 10p.
地震調査研究推進本部地震調査委員会(2015): 「糸魚川-静岡構造線断層帯の長期評価(第二版)」, 60p.
- 注20: 境峠・神谷断層帯(主部)は、最新活動時期を約4千9百年前以後-約2千5百年前以前、1つ前の活動を約7千7百年前以後-約6千7百年前以前の可能性があるとし、これら過去2回の活動の間隔を基に平均活動間隔(約1千8百-5千2百年)を求めている。ただし、最新活動時期の年代幅が大きく、またそのため、平均活動間隔に関しても十分に時期を絞り込むことができなかった。したがって、これらの値から算出した地震後経過率(0.5-2.7)及び将来の地震発生確率(今後30年: 0.02%-13%)は、いずれも大きく幅を持たせた評価となっていることに留意する必要がある。
- 注21: 伊那谷断層帯(主部)の最新活動時期は、14世紀以後、18世紀以前と推定されている。18世紀以前であることは、1725年の高遠の地震以降に本断層帯付近で大きな被害地震が起こっていないことに基づいていることから、最新活動時期を西暦1300年以後、西暦1725年以前として地震発生確率を算出している。

- 注22： 富士川河口断層帯については、駿河トラフで発生した海溝型地震に伴って活動してきたと考えられる。そのため、他の活断層の評価と一概に比較できないことから、別途、参考として記載した。富士川河口断層帯については、その過去の活動時期などについて、2つの可能性が考えられることから、2つのケースに分けて評価している。ケースaの場合、富士川河口断層帯は駿河トラフで発生する海溝型地震と連動して同時に活動し、活動の際には浮島ヶ原地区で沈水現象が生じると考えられる、と評価した。また、ケースbの場合、浮島ヶ原地区で認められた沈水現象については、富士川河口断層帯の活動を伴わない海溝型地震の履歴を表している可能性があり、富士川河口断層帯の過去の活動時期は、断層近傍の地表で変位が生じた時期に基づいて推定するべきであるとして評価した。いずれのケースであっても、発生する地震の規模は、駿河トラフで発生する海溝型地震と連動して同時に活動する場合の規模を推定している。なお、富士川河口断層帯の陸上部で認められている断層が単独で活動する可能性もあり、その場合、マグニチュード7.2程度の地震が発生する可能性がある。
- また、将来確率について、ケースaの場合、最新活動時期からの経過時間が平均活動間隔の2倍を超えているため、通常の活断層評価で用いている計算方法（地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT分布モデル）ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方（ポアソン過程）により長期確率を求めている。なお、活断層の相対的評価については、他の活断層帯と比較した際に今回評価した地震発生確率をそのまま当てはめた場合にはどうなるかを参考までに示したということに留意されたい。
- 注23： 深谷断層帯・綾瀬川断層帯については、これまで関東平野北西縁断層帯として平井-櫛挽断層帯・主部の2区分、また、元荒川断層帯として北部・南部に2区分して評価を行っていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2000、地震調査研究推進本部地震調査委員会、2005）。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）は、その後に得られた新たな知見に基づき、関東平野北西縁断層帯の平井-櫛挽断層帯から主部の一部までを深谷断層帯、また、元荒川断層帯の北部（関東平野北西縁断層帯の一部）を綾瀬川断層帯の鴻巣-伊奈区間、元荒川断層帯の南部を伊奈-川口区間として評価を行った。綾瀬川断層帯南部（伊奈-川口区間）は、元荒川断層帯の南部に対応しこれまで活断層ではないとされていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2000）が、新たな知見により活断層の可能性を認定した（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2015）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2000）：「元荒川断層帯の評価」、15p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：「関東平野北西縁断層帯の長期評価」、34p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）：「深谷断層帯・綾瀬川断層帯（関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯）の長期評価（一部改訂）」、56p。
- 注24： 塩沢断層帯・平山-松田北断層帯・国府津-松田断層帯については、これまで神縄・国府津-松田断層帯として国府津-松田断層帯から塩沢断層帯までを一連の断層帯として評価を行っていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2009）。その後、国府津-松田断層帯については、プレート境界からの分岐断層と判断し、相模トラフ沿いのM8クラスの地震の何回かに一回の割合で同時に動くとして評価した（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2014）。また、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）は、断層帯を構成する断層やそれらの位置・形状・周辺の地下構造、活動履歴に関する新たな知見に基づき、神縄断層を活断層ではないと判断し、塩沢断層帯を伏在断層として南西方向へ延長する等の評価を行った。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2009）：「神縄・国府津-松田断層帯の評価（一部改訂）」、35p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2014）：「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価（第二版）について」、81p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）：「塩沢断層帯・平山-松田北断層帯・国府津-松田断層帯（神縄・国府津-松田断層帯）の長期評価（第二版）」、55p。

■近畿地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュー ド)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 (注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
滋賀県	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/北部)	やながせ・せきが はらだんそう たい	7.6程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.2	約2,300年-2,700年 17世紀頃
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/中部)		6.6程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (主部/南部)		7.6程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯 (浦底-柳ヶ瀬山断層帯)		7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	野坂・集福寺断層帯 (野坂断層帯)	のさか・しゅう ふくじだんそう たい	7.3程度	Zランク		ほぼ0% もしくはそれ以上	ほぼ0% もしくはそれ以上	ほぼ0% もしくはそれ以上	0.04-0.1 もしくはそれ以上	約5,600年-7,600年 15-17世紀
	野坂・集福寺断層帯 (集福寺断層帯)		6.5程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	湖北山地断層帯 (北西部)	こほくさんちだ んそうたい	7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%~ 0.001%	0.2-0.3	約3,000年-4,000年 11-14世紀
	湖北山地断層帯 (南東部)		6.8程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.05-0.09	概ね7,000年程度 15-17世紀
	琵琶湖西岸断層帯 (北部) ^(注23)	びわこせいが んだんそうたい	7.1程度	Sランク		1%~3%	2%~5%	4%~10%	-	約1,000年-2,800年 約2,800年前-約2,400年前
	琵琶湖西岸断層帯 (南部)		7.5程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.2	約4,500年-6,000年 1185年の地震
	鈴鹿西縁断層帯 ^(注5)	すずかせいえ んだんそうたい	7.6程度	Aランク		0.08%~0.2%	0.1%~0.3%	0.3%~0.6%	不明	約18,000年-36,000年 不明
	頓宮断層	とんぐうだんそ う	7.3程度	A*ランク		1%以下	2%以下	4%以下	1.0以下	約10,000年以上 約10,000年前-7世紀
	三方・花折断層帯 (三方断層帯)	みかた・はな おれだんそう たい	7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.09	約3,800年-6,300年 1662年の地震
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/北部) ^(注17)		7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/中南部)		7.3程度	A*ランク		ほぼ0%~0.6%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	0.2-0.7	4,200年-6,500年 2,800年前-6世紀
木津川断層帯	きづがわだん そうたい	7.3程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.04	約4,000年-25,000年 1854年伊賀上野地震	
三方・花折断層帯 (三方断層帯)	みかた・はな おれだんそう たい	7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.09	約3,800年-6,300年 1662年の地震	
三方・花折断層帯 (花折断層帯/北部) ^(注17)		7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明	
三方・花折断層帯 (花折断層帯/中南部)		7.3程度	A*ランク		ほぼ0%~0.6%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	0.2-0.7	4,200年-6,500年 2,800年前-6世紀	
山田断層帯 (主部)		やまだだんそ うたい	7.4程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
山田断層帯 (郷村断層帯)		7.4程度 もしくはそれ以上	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.006-0.009	約3,300年前以前 約10,000年-15,000年 1927年北丹後地震	
奈良盆地東縁断層帯 ^(注24)	ならぼんちとう えんだんそう たい	7.4程度	S*ランク		ほぼ0%~5%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-2.2	約5,000年 約11,000年前-1,200年前	
三峠・京都西山断層帯 (上林川断層)	みとけ・きょう とにしやまだん そうたい	7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明	
三峠・京都西山断層帯 (三峠断層) ^(注5)		7.2程度	Aランク		0.4%~0.6%	0.7%~1%	1%~2%	不明	5,000年-7,000年程度 3世紀以前	
三峠・京都西山断層帯 (京都西山断層帯)		7.5程度	A*ランク		ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~3%	0.3-0.7	約3,500年-5,600年 約2,400年前-2世紀	
有馬-高槻断層帯	ありま-たかつ きだんそう たい	7.5程度 (7.5±0.5)	Zランク		ほぼ0%~ 0.03%	ほぼ0%~ 0.08%	ほぼ0%~0.4%	0.2-0.4	1,000年-2,000年程度 1596年慶長伏見地震	

大阪府	有馬-高槻断層帯	ありまーたかつきだんそうたい	7.5程度 (7.5±0.5)	Zランク	ほぼ0%~0.03%	ほぼ0%~0.08%	ほぼ0%~0.4%	0.2-0.4	1,000年-2,000年程度 1596年慶長伏見地震
	生駒断層帯	いこまだんそうたい	7.0~7.5程度	Aランク	ほぼ0%~0.2%	ほぼ0%~0.3%	ほぼ0%~0.6%	0.2-0.5	3,000年-6,000年 400年頃以後-1,000年頃以前
	三峠・京都西山断層帯 (上林川断層)		7.2程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	三峠・京都西山断層帯 (三峠断層) ^(注5)	みとけ・きょうとにしやまだんそうたい	7.2程度	Aランク	0.4%~0.6%	0.7%~1%	1%~2%	不明	5,000年-7,000年程度 3世紀以前
	三峠・京都西山断層帯 (京都西山断層帯)		7.5程度	A*ランク	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~3%	0.3-0.7	約3,500年-5,600年 約2,400年前-2世紀
	六甲・淡路島断層帯 (主部/六甲山地南縁-淡路島東岸区間)		7.9程度	Aランク	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~6%	0.1-0.6	900年-2,800年程度 16世紀
	六甲・淡路島断層帯 (主部/淡路島西岸区間)	ろっこう・あわじしまだんそうたい	7.1程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.009-0.01	1,800年-2,500年程度 1995年兵庫県南部地震
	六甲・淡路島断層帯 (先山断層帯)		6.6程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.2	5,000年-10,000年程度 11世紀-17世紀初頭
	上町断層帯	うえまちだんそうたい	7.5程度	S*ランク	2%~3%	3%~5%	6%~10%	1.1-2より大	8,000年程度 約28,000年前-9,000年前
	大阪湾断層帯	おおさかわんだんそうたい	7.5程度	Zランク	0.004%以下	0.008%以下	0.02%以下	0.4以下	約3,000年-7,000年 9世紀以後
兵庫県	山田断層帯 (主部)	やまだだんそうたい	7.4程度	Xランク	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約3,300年前以前
	山田断層帯 (郷村断層帯)		7.4程度 もしくはそれ以上	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.006-0.009	約10,000年-15,000年 1927年北丹後地震
	有馬-高槻断層帯	ありまーたかつきだんそうたい	7.5程度 (7.5±0.5)	Zランク	ほぼ0%~0.03%	ほぼ0%~0.08%	ほぼ0%~0.4%	0.2-0.4	1,000年-2,000年程度 1596年慶長伏見地震
	六甲・淡路島断層帯 (主部/六甲山地南縁-淡路島東岸区間)		7.9程度	Aランク	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~6%	0.1-0.6	900年-2,800年程度 16世紀
	六甲・淡路島断層帯 (主部/淡路島西岸区間)	ろっこう・あわじしまだんそうたい	7.1程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.009-0.01	1,800年-2,500年程度 1995年兵庫県南部地震
	六甲・淡路島断層帯 (先山断層帯)		6.6程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.2	5,000年-10,000年程度 11世紀-17世紀初頭
	中央構造線断層帯 ^(注25) (金剛山地東縁区間)		6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000年-7,600年 1世紀以後-3世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (五条谷区間)		7.3程度	Xランク	不明	不明	不明	不明	不明 約2200年前以後-7世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (根来区間)		7.2程度	Aランク	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (紀淡海峡-鳴門海峡区間)		7.5程度	A*ランク	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁東部区間)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	7.7程度	Aランク	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	900年-1,200年 16世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁西部区間)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁区間)		7.3程度	Zランク	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,500年-1,800年 15世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁西部区間)		7.5程度	S*ランク	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (伊予灘区間)		8.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (豊予海峡-由布院区間)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約1,600年-1,700年 17世紀
	山崎断層帯 (那岐山断層帯) ^(注5)		7.3程度	Aランク	0.06%~0.1%	0.1%~0.2%	0.2%~0.4%	不明	24,000年-53,000年程度 不明
	山崎断層帯 (主部/北西部)	やまさきだんそうたい	7.7程度	Aランク	0.09%~1%	0.2%~2%	0.4%~4%	0.5-0.6	約1,800年-2,300年 868年播磨国地震
	山崎断層帯 (主部/南東部)		7.3程度	Zランク	ほぼ0%~0.01%	ほぼ0%~0.02%	0.002%~0.05%	0.4	3,900年程度 4-6世紀
	山崎断層帯 (草谷断層)		6.7程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.3	6,500年程度 4-12世紀
大阪湾断層帯	おおさかわんだんそうたい	7.5程度	Zランク	0.004%以下	0.008%以下	0.02%以下	0.4以下	約3,000年-7,000年 9世紀以後	

奈良県	奈良盆地東縁断層帯 ^(注24)	ならぼんちとうえんだんそうたい	7.4程度	S*ランク	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-2.2	約5,000年
	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間) ^(注25)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約11,000年前-1,200年前
	中央構造線断層帯(五条谷区間) ^(注25)		7.3程度	Xランク	不明	不明	不明	不明	約6,000年-7,600年 1世紀以後-3世紀以前
	中央構造線断層帯(根来区間) ^(注25)		7.2程度	Aランク	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	不明 約2,200年前以後-7世紀以前
	中央構造線断層帯(紀淡海峡-鳴門海峡区間) ^(注25)		7.5程度	A*ランク	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前
	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁東部区間) ^(注25)		7.7程度	Aランク	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前
	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁西部区間) ^(注25)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	900年-1,200年 16世紀以後
	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁区間) ^(注25)		7.3程度	Zランク	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前
	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間) ^(注25)		7.5程度	S*ランク	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約1,500年-1,800年 15世紀以後
	中央構造線断層帯(伊予灘区間) ^(注25)		8.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前
	中央構造線断層帯(豊予海峡-由布院区間) ^(注25)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前
和歌山県	中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間) ^(注25)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約1,600年-1,700年 17世紀
	中央構造線断層帯(五条谷区間) ^(注25)		7.3程度	Xランク	不明	不明	不明	不明	約6,000年-7,600年 1世紀以後-3世紀以前
	中央構造線断層帯(根来区間) ^(注25)		7.2程度	Aランク	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	不明 約2,200年前以後-7世紀以前
	中央構造線断層帯(紀淡海峡-鳴門海峡区間) ^(注25)		7.5程度	A*ランク	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前
	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁東部区間) ^(注25)		7.7程度	Aランク	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前
	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁西部区間) ^(注25)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	900年-1,200年 16世紀以後
	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁区間) ^(注25)		7.3程度	Zランク	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前
	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間) ^(注25)		7.5程度	S*ランク	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約1,500年-1,800年 15世紀以後
	中央構造線断層帯(伊予灘区間) ^(注25)		8.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前
	中央構造線断層帯(豊予海峡-由布院区間) ^(注25)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前

注1： 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。

注2： 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注3： 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。

注4： 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率(注2)が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。

注5： 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法(地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT分布モデル)ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方(ポアソン過程)により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。

注17： 三方・花折断層帯(花折断層帯/北部)は、平均活動間隔が不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が1662年の地震である可能性があることから、近い将来の地震発生可能性は小さいと考えられる。

注23： 琵琶湖西岸断層帯(北部)は、最新活動時期は約2800年前以後、約2400年前以前と求められているが、平均活動間隔約1000年-2800年と比較して最新活動時期からの経過時間が長くなる可能性が考えられる。そのため、地震発生確率の計算に際しては、ポアソン過程を用いた。同じ理由から、地震後経過率も求めない。なお、通常のBPT分布を用いた場合、30年確率のとり得る範囲は3%-20%、地震後経過率は0.9-2.8となる。また、この評価とは別に、琵琶湖西岸断層帯(北部)の最新活動時期を7世紀中葉以降とする考えもある。この考えに従うと、平均活動間隔が大幅に短くなり、将来の地震発生確率も今後30年以内、50年以内、100年以内の地震発生確率は、それぞれ2%-6%、4%-10%、7%-20%と幅がさらに大きくなり、最大値が大きくなることに注意が必要である。

注24： 京都盆地-奈良盆地断層帯南部は、評価の結果、奈良盆地東縁断層帯と称することとしたので、ここでは奈良盆地東縁断層帯と記述した。

注25： 中央構造線断層帯は、中央構造線断層帯については、これまで6つの区間に分かれて活動するとして評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2011)。その後、同断層帯及び延長部の分布に関する新たな知見に基づき、これまでの各区間を9つの区間に再整理し、また、西端を九州側へ延長した豊予海峡-由布院区間を追加して、計10の区間の断層帯として評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2017)。また、これらは1つの断層帯として同時に活動する可能性もある。その場合はマグニチュード8.0程度もしくはそれ以上の地震が発生し、その長期確率は、10の区間が個別に活動する長期確率を超えることはないとして評価されている。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2011)：「中央構造線断層帯の評価(一部改訂)」、88p。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2017)：「中央構造線断層帯の長期評価(第二版)」、162p。

■中国地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
鳥取県	鹿野-吉岡断層	しかのーよしお かだんそう	7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.008 -0.02	4,600年-9,200年程度 1943年鳥取地震
島根県	宍道(鹿島)断層 (ケース1)	しんじ(かしま) だんそう	7.0程度 もしくはそれ以上	Zランク		ほぼ0%~ 0.003%	ほぼ0%~ 0.005%	ほぼ0%~ 0.01%	0.1-0.4	約3,300年-4,900年 8世紀以後、14世紀以前
	S*ランク				0.9%-6%	2%-10%	3%-20%	0.8-1.8	約3,300年-4,900年 約5,900年前以後-約3,700年前以前	
	弥栄断層	やさかだんそう	7.7程度	S*ランク		ほぼ0%~6%	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~20%	0.02-2より大	約4,000年-13,000年 約11,000年前以後-約300年前以前
	大原湖断層	おおはらこた んそう	7.5程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
岡山県	山崎断層帯 (那岐山断層帯) ^(注5)	やまさきだんそ うたい	7.3程度	Aランク		0.06%~0.1%	0.1%~0.2%	0.2%~0.4%	不明	24,000年-53,000年程度 不明
	Aランク				0.09%~1%	0.2%~2%	0.4%~4%	0.5-0.6	約1,800年-2,300年 868年播磨国地震	
	Zランク				ほぼ0%~ 0.01%	ほぼ0%~ 0.02%	0.002%~ 0.05%	0.4	3,900年程度 4-6世紀	
	Zランク				ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1-0.3	6,500年程度 4-12世紀	
	長者ヶ原-芳井断層	ちようじゃがは らーよしいだん そう	7.3程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
広島県	長者ヶ原-芳井断層	ちようじゃがは らーよしいだん そう	7.3程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	筒賀断層	つつがだんそ う	7.8程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	岩国-五日市断層帯 ^(注6) (己斐断層区間)	いわくにーい つかいちだん そうたい	7.1程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約23,000年前以前
	Xランク				不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 7世紀以後-12世紀以前	
	A*ランク				0.03%~2%	0.05%~3%	0.1%~6%	0.6-1.2	約9,000年-18,000年 約10,000年-11,000年前	
	安芸灘断層帯 ^(注7)	あきなだだん そうたい	7.2程度	S*ランク		0.1%~10%	0.2%~20%	0.4%~30%	0.6-2.4	2,300年-6,400年程度 約5,600年前以後-約3,600年前以前
	広島湾-岩国冲断層帯 ^(注6)	ひろしまわん ーいわくににお きだんそうたい	7.5程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
山口県	筒賀断層	つつがだんそ う	7.8程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	地福断層	じふくだんそう	7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	大原湖断層	おおはらこた んそう	7.5程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	小郡断層	おごおりだん そう	7.3程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.01-0.02	約23,000年-25,000年 約5,600年前以後-約300年前以前
	岩国-五日市断層帯 ^(注6) (己斐断層区間)	いわくにーい つかいちだん そうたい	7.1程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約23,000年前以前
	Xランク				不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 7世紀以後-12世紀以前	
	A*ランク				0.03%~2%	0.05%~3%	0.1%~6%	0.6-1.2	約9,000年-18,000年 約10,000年-11,000年前	
	菊川断層帯 ^(注8) (北部区間)	きくがわだん そうたい	7.7程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約14,000年前以後
	S*ランク				0.1%~4%	0.2%~7%	0.4%~10%	0.6-1.4	約4,100年-約5,900年 約5,900年前以後-約3,300年前以前	
	Xランク				6.9程度 もしくはそれ以上	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	安芸灘断層帯 ^(注7)	あきなだだん そうたい	7.2程度	S*ランク		0.1%~10%	0.2%~20%	0.4%~30%	0.6-2.4	2,300年-6,400年程度 約5,600年前以後-約3,600年前以前
	広島湾-岩国冲断層帯 ^(注6)	ひろしまわん ーいわくににお きだんそうたい	7.5程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	周防灘断層帯 ^(注9) (周防灘断層帯主部区間)	すおうなだだ んそうたい	7.6程度	S*ランク		2%~4%	4%~6%	7%~10%	1.3-1.9	概ね5,800年-7,500年 約11,000年前以後-10,000年前以前
Xランク				不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明		

- 注1： 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。
- 注2： 最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。
- 注3： 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。
- 注4： 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。地震後経過率（注2）が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。
- 注5： 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法（地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT分布モデル）ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方（ポアソン過程）により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。
- 注6： 岩国-五日市断層帯については、これまで岩国断層帯、五日市断層帯のそれぞれを別の断層帯として評価を行っていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2004a, 2004b）。その後、岩国断層帯、五日市断層帯のそれぞれの延長部の分布に関する新たな知見に基づき、五日市断層帯についてはその南端を海域へ延長して五日市断層区間とし、また、岩国断層帯についてはその北端を海域へ延長して岩国断層区間とし、さらに、己斐断層区間を追加して評価を行った（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2016）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004a）：「五日市断層帯の評価」、16p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004b）：「岩国断層帯の評価」、15p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016）：「岩国-五日市断層帯（岩国断層帯・五日市断層帯）の長期評価（一部改訂）」、29p。
- 注7： 安芸灘断層帯、広島湾-岩国沖断層帯については、これまで安芸灘断層群として評価していた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2009）。その後、これまで断層群としていたものを新たな知見により、断層の位置関係や連続性を再整理し、安芸灘断層帯、広島湾-岩国沖断層帯の2つの断層帯に区分して評価を行った（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2016）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2009）：「安芸灘断層群の評価」、22p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016）：「安芸灘断層帯・広島湾-岩国沖断層帯（安芸灘断層群）の長期評価（一部改訂）」、28p。
- 注8： 菊川断層帯については、これまで中部区間を単一の活動区間として評価を行っていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2003）。その後、同断層帯延長部の分布に関する新たな知見に基づき、菊川断層帯の北西端を北西の沖合へ延長した北部区間を追加し、また、菊川断層帯の南東端を南東へ延長した南部区間を追加して評価を行った（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2016）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2003）：「菊川断層帯の評価」、10p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016）：「菊川断層帯の長期評価（一部改訂）」、28p。
- 注9： 周防灘断層帯については、これまで宇部沖断層群として周防灘断層群主部、秋穂沖断層帯、宇部南方沖断層帯に区分して評価していた（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2008）。その後、これまで断層群としていたものを陸域の新たな知見や連続性などから整理し、周防灘断層帯主部区間、秋穂沖断層区間の2つに区分して評価を行った（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2016）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）：「宇部沖断層群（周防灘断層群）の評価」、29p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016）：「周防灘断層帯（周防灘断層群・宇部沖断層帯）の長期評価（一部改訂）」、28p。

■ 四国地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
徳島県	中央構造線断層帯 ^(注25) (金剛山地東縁区間)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	6.8程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000年-7,600年 1世紀以後-3世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (五条谷区間)		7.3程度	Xランク	黒	不明	不明	不明	不明	不明 約2200年前以後-7世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (根来区間)		7.2程度	Aランク	黄	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (紀淡海峡-鳴門海峡区間)		7.5程度	A*ランク	黄	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁東部区間)		7.7程度	Aランク	黄	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	900年-1,200年 16世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁西部区間)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	黄	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁区間)		7.3程度	Zランク	黒	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,500年-1,800年 15世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁西部区間)		7.5程度	S*ランク	赤	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (伊予灘区間)		8.0程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (豊予海峡-由布院区間)		7.8程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約1,600年-1,700年 17世紀
香川県	長尾断層帯	ながおだんそうたい	7.3程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.01-0.04	概ね30,000年程度 8世紀以後-16世紀以前
愛媛県	中央構造線断層帯 ^(注25) (金剛山地東縁区間)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	6.8程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000年-7,600年 1世紀以後-3世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (五条谷区間)		7.3程度	Xランク	黒	不明	不明	不明	不明	不明 約2200年前以後-7世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (根来区間)		7.2程度	Aランク	黄	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (紀淡海峡-鳴門海峡区間)		7.5程度	A*ランク	黄	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁東部区間)		7.7程度	Aランク	黄	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	900年-1,200年 16世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (讃岐山脈南縁西部区間)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	黄	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁区間)		7.3程度	Zランク	黒	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,500年-1,800年 15世紀以後
	中央構造線断層帯 ^(注25) (石鎚山脈北縁西部区間)		7.5程度	S*ランク	赤	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (伊予灘区間)		8.0程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前
	中央構造線断層帯 ^(注25) (豊予海峡-由布院区間)		7.8程度	Zランク	黒	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約1,600年-1,700年 17世紀

注1： 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、10⁻³%未満の確率値を表す。

注2： 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注4： 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率(注2)が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。

注25： 中央構造線断層帯は、中央構造線断層帯については、これまで6つの区間に分かれて活動するとして評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2011)。その後、同断層帯及び延長部の分布に関する新たな知見に基づき、これまでの各区間を9つの区間に再整理し、また、西端を九州側へ延長した豊予海峡-由布院区間を追加して、計10の区間の断層帯として評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2017)。また、これらは1つの断層帯として同時に活動する可能性もある。その場合はマグニチュード8.0程度もしくはそれ以上の地震が発生し、その長期確率は、10の区間が個別に活動する長期確率を超えることはないとして評価されている。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2011)：「中央構造線断層帯の評価(一部改訂)」, 88p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2017)：「中央構造線断層帯の長期評価(第二版)」, 162p.

■九州・沖縄地方

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
福岡県	福智山断層帯	ふくちやまだん そうたい	7.2程度	S*ランク	■	ほぼ0%~3%	ほぼ0%~4%	0.001%~8%	0.4~2より大	約9,400年-32,000年 約28,000年前以後-13,000年前以前
	西山断層帯 ^(注26) (大島沖区間)	にしやまだん そうたい	7.5程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約20,000年前以後
	西山断層帯 ^(注26) (西山区間)		7.6程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約13,000年前以後-概ね2,000年前以前
	西山断層帯 ^(注26) (嘉麻峠区間)		7.3程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明
	宇美断層	うみだんそう	7.1程度	Zランク	■	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2以下	約20000年-30000年 約4500年前以後
	水縄断層帯	みのうだんそう たい	7.2程度	Zランク	■	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.1	14,000年程度 679年筑紫地震
	警固断層帯 (北西部) ^(注27)	けごだんそうた い	7.0程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 2005年福岡県西方沖の地震
	警固断層帯 (南東部)		7.2程度	S*ランク	■	0.3%~6%	0.4%~9%	0.9%~20%	0.6-1.4	約3,100年-5,500年 約4,300年前-3,400年前
	日向峠-小笠木峠断層	ひなたとうげ- おかさぎとうげ だんそうたい	7.2程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
佐賀県	日向峠-小笠木峠断層	ひなたとうげ- おかさぎとうげ だんそうたい	7.2程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	佐賀平野北縁断層帯 ^(注5)	さがへいやはほく えんだんそうた い	7.5程度	Aランク	■	0.2%~0.5%	0.3%~0.8%	0.5%~2%	不明	6,600-19,000年程度 不明
長崎県	雲仙断層群 (北部) ^(注28)	うんぜんだんそ うぐん	7.3程度以上	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約5,000年前以後
	雲仙断層群 (南東部) ^(注28)		7.1程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約7,300年前以後
	雲仙断層群 (南西部/北部)		7.3程度	S*ランク	■	ほぼ0%~4%	ほぼ0%~7%	ほぼ0%~10%	0.2-1.0	約2,500年-4,700年 約2,400年前-11世紀以前
	雲仙断層群 (南西部/南部) ^(注29)		7.1程度	Aランク	■	0.5%~1%	0.8%~2%	2%~5%	-	約2,100年-6,500年 約4,500年前以後-16世紀以前
熊本県	布田川断層帯 ^(注30) (宇土半島北岸区間)	ふたがわだん そうたい	7.2程度以上	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	布田川断層帯 ^(注30) (宇土区間)		7.0程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	布田川断層帯 ^(注30) (布田川区間)		7.0程度	Zランク ^(注31)	■	ほぼ0% ^(注31)	ほぼ0% ^(注31)	ほぼ0% ^(注31)	0.00008- 0.0002 ^(注31)	8,100年-26,000年程度 ^(注32) 平成28年(2016年)熊本地震 ^(注31)
	日奈久断層帯 ^(注30) (八代海区間)	ひなぐだんそう たい	7.3程度	S*ランク	■	ほぼ0%~16%	ほぼ0%~30%	ほぼ0%~50%	0.1-1.5	1,100年-6,400年程度 約1,700年前以後-約900年前以前
	日奈久断層帯 ^(注30) (日奈久区間)		7.5程度	S*ランク	■	ほぼ0%~6%	ほぼ0%~10%	ほぼ0%~20%	0.2-2.3	3,600年-11,000年程度 約8,400年前以後-約2,000年前以前
	日奈久断層帯 ^(注30) (高野-白旗区間)		6.8程度	Xランク	■	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 約1,600年以後-約1,200年前以前
	緑川断層帯 ^(注5)		みどりかわだん そうたい	7.4程度	Zランク	■	0.04%~0.09%	0.07%~0.1%	0.1%~0.3%	不明
	出水断層帯	いずみだんそ うたい	7.0程度	A*ランク	■	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~4%	0.3-0.9	概ね8,000年 約7,300年前以後-2,400年前以前
	人吉盆地南縁断層	ひとよしぼんち なんえんだん そう	7.1程度	A*ランク	■	1%以下	2%以下	4%以下	0.9以下	約8,000年以上 約7,300年前以後-3,200年前以前
	万年山-崩平山断層帯	はねやま-くえ のひらやまだ んそうたい	7.3程度	Zランク	■	0.003%以下	0.007%以下	0.02%以下	0.4以下	2,100年-3,700年程度 13世紀以後

大分県	中央構造線断層帯 (注25) (金剛山地東縁区間)	ちゅうおうこうぞうせんだんそうたい	6.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000年-7,600年	
	中央構造線断層帯 (注25) (五条谷区間)		7.3程度	Xランク	不明	不明	不明	不明	1世紀以後-3世紀以前	
	中央構造線断層帯 (注25) (根来区間)		7.2程度	Aランク	0.007%~0.3%	0.01%~0.5%	0.04%~1%	0.4-0.6	不明 約2,200年前以後-7世紀以前	
	中央構造線断層帯 (注25) (紀淡海峡-鳴門海峡区間)		7.5程度	A*ランク	0.005%~1%	0.009%~2%	0.02%~4%	0.4-0.8	約2,500年-2,900年 7世紀以後-8世紀以前	
	中央構造線断層帯 (注25) (讃岐山脈南縁東部区間)		7.7程度	Aランク	1%以下	2%以下	6%以下	0.6以下	約4,000年-6,000年 約3,100年前-2,600年前	
	中央構造線断層帯 (注25) (讃岐山脈南縁西部区間)		8.0程度 もしくはそれ以上	Aランク	ほぼ0%~0.4%	ほぼ0%~0.8%	ほぼ0%~2%	0.2-0.5	900年-1,200年 16世紀以後	
	中央構造線断層帯 (注25) (石鎚山脈北縁区間)		7.3程度	Zランク	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1,000年-1,500年 16世紀以後-17世紀以前	
	中央構造線断層帯 (注25) (石鎚山脈北縁西部区間)		7.5程度	S*ランク	ほぼ0%~12%	ほぼ0%~20%	ほぼ0%~40%	0.2-0.9	約1,500年-1,800年 15世紀以後	
	中央構造線断層帯 (注25) (伊予灘区間)		8.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約700年-1,300年 15世紀以後-18世紀以前	
	中央構造線断層帯 (注25) (豊予海峡-由布院区間)		7.8程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3	約2,900年-3,300年 17世紀以後-19世紀以前	
	日出生断層帯 (注33)		ひじうだんそうたい	7.5程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.05-0.4	約1,600年-1,700年 17世紀
	万年山-崩平山断層帯 (注33)		はねやま-くえのひらやまだんそうたい	7.3程度	Zランク	0.003%以下	0.007%以下	0.02%以下	0.4以下	約20,000年-27,000年 約7,300年前以降-6世紀以前
周防灘断層帯 (注8) (周防灘断層帯主部区間)	すおうなだだんそうたい	7.6程度	S*ランク	2%~4%	4%~6%	7%~10%	1.3-1.9	2,100年-3,700年程度 13世紀以後		
		7.1程度	Xランク	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明 不明		
鹿児島県	出水断層帯	いずみだんそうたい	7.0程度	A*ランク	ほぼ0%~1%	ほぼ0%~2%	ほぼ0%~4%	0.3-0.9	概ね8,000年 約7,300年前以後-2,400年前以前	
	甕断層帯 (上甕島北東沖区間)	こしきだんそうたい	6.9程度	Xランク	不明	不明	不明	不明	不明 不明	
	甕断層帯 (甕区間) (注5)		7.5程度	Aランク	0.3%~1%	0.5%~2%	0.9%~4%	不明	2,400年-11,000年程度 不明	
沖縄県	宮古島断層帯 (中部)	みやこじまだんそうたい	7.2程度以上	Xランク	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明 不明	
	宮古島断層帯 (西部)		6.9程度以上	Xランク	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明(注3)	不明 不明	

注1: 確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また「ほぼ0%」とあるのは、 10^{-3} %未満の確率値を表す。

注2: 最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注3: 平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。

注4: 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。地震後経過率(注2)が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。

注5: 最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法(地震の発生確率が時間とともに変動するモデル: BPT分布モデル)ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方(ボアソン過程)により長期確率を求めている。

注8: 周防灘断層帯については、これまで宇部沖断層群として周防灘断層群主部、秋穂沖断層帯、宇部南方沖断層帯に区分して評価していた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2008)。その後、これまで断層群としていたものを陸域の新たな知見や連続性などから整理し、周防灘断層帯主部区間、秋穂沖断層帯区間の2つに区分して評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2016)。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2008):「宇部沖断層群(周防灘断層群)の評価」, 29p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2016):「周防灘断層帯(周防灘断層群・宇部沖断層群)の長期評価(一部改訂)」, 28p.

注25: 中央構造線断層帯は、中央構造線断層帯については、これまで6つの区間に分かれて活動するとして評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2011)。その後、同断層帯及び延長部の分布に関する新たな知見に基づき、これまでの各区間を9つの区間に再整理し、また、西端を九州側へ延長した豊予海峡-由布院区間を追加して、計10の区間の断層帯として評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2017)。また、これらは1つの断層帯として同時に活動する可能性もある。その場合はマグニチュード8.0程度もしくはそれ以上の地震が発生し、その長期確率は、10の区間が個別に活動する長期確率を超えることはないとして評価されている。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2011):「中央構造線断層帯の評価(一部改訂)」, 88p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2017):「中央構造線断層帯の長期評価(第二版)」, 162p.

注26: 西山断層帯については、これまで単一の活動区間として評価を行っていた(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2004)。その後、同断層帯延長部の分布及び活動履歴に関する新たな知見に基づき、大島沖区間・西山区間・嘉麻峠区間の3区間に区分して評価を行った(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2013b)。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2004):「西山断層帯の評価」, 11p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2013b):「西山断層帯の評価(一部改訂)」, 32p.

注27: 警固断層帯(北西部)は、平均活動間隔などが不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が2005年であり、地震後経過年数が短いため、近い将来の地震発生確率はごく小さいと考えられる。なお、断層面の位置・形状や活動履歴の検討をするための地形学・地質学的な資料が得られていないことから、長期評価は主に地震観測結果などの地球物理学的な資料に基づいて行った。

注28: 雲山断層群(北部、南東部)は、平均活動間隔が求められていないため、地震発生確率は不明となっている。しかし、信頼度が低い情報ながら、これらの断層帯における平均変位速度は1m/千年程度に達する可能性が指摘されている。このため、これらの断層帯においては平均活動間隔が最新活動時期からの経過時間よりも短い可能性もあり得るため、注意が必要である。

- 注29：雲仙断層群（西部/南部）は、最新活動時期が約4500年前－16世紀と求められているが、平均活動間隔2100－6500年に対して十分に絞り込まれていない。このため、地震発生確率の計算に際しては、ポアソン過程を用いた。同じ理由から、地震後経過率も求めてない。
- 注30：布田川断層帯及び日奈久断層帯については、これまで布田川・日奈久断層帯として、北東部・中部・南部に3区分して評価を行っていた（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2002）。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2013a）は、その後に得られた新たな知見に基づき、布田川断層帯と日奈久断層帯に二分し、さらに布田川断層帯を布田川区間・宇土区間・宇土半島北岸区間、日奈久断層帯を高野－白旗区間・日奈久区間・八代海区間に区分して評価を行った。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2002）：「布田川・日奈久断層帯の評価」，35p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2013a）：「布田川断層帯・日奈久断層帯の評価（一部改訂）」，66p。
- 注31：布田川断層帯布田川区間については、平成28年（2016年）熊本地震で活動した（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2016ab）として評価を行った。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016a）：「平成28年4月16日熊本県熊本地方の地震の評価」（2016年4月16日公表）
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2016b）：「平成28年（2016年）熊本地震の評価」（2016年5月13日公表）
- 注32：布田川断層帯布田川区間の平均活動間隔については、暫定的に平成28年（2016年）熊本地震発生前の評価（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2015）における値とした。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2015）：「布田川断層帯・日奈久断層帯の評価（一部改訂）」，6p。
- 注33：日出生断層帯、万年山－崩平山断層帯は、これまで別府－万年山断層帯の一部として評価していた。その後、中央構造線断層帯の再評価（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2017a）により、別府－万年山断層帯の構成断層を見直し、日出生断層帯、万年山－崩平山断層帯としてそれぞれ評価した（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2017b, 2017c）。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：「別府－万年山断層帯の評価」，73p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2017a）：「中央構造線断層帯の長期評価（第二版）」，162p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2017b）：「日出生断層帯の長期評価（第一版）」，25p。
地震調査研究推進本部地震調査委員会（2017c）：「万年山－崩平山断層帯の長期評価（第一版）」，28p。